

# 清末小説から 92

2009.1.1

瀬戸宏報告を評する.....樽本照雄 1

《滑稽小説 紙牌》の原作.....渡辺浩司11

晩清小説作者掃描(拾柒).....武 禧18

商務印書館創業者の姻戚関係図(補遺).....樽本照雄17

清末小説から20

本年もよろしくおねがいいたします。中国で林紓の再評価が準備されているのでしょうか。『林紓研究資料選編』は久しぶりに刊行された資料集です。本誌後ろの目録をご覧ください

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

配付資料：A4判15頁(うち書影など7頁)

日時場所：2008年6月15日午前 関西

大学

評 者：樽本照雄(大阪経済大学)

司 会：萩野脩二(関西大学)

瀬戸宏報告を評する

「林紓のシェイクスピア観

林紓は冤罪か」について

樽本照雄

当日、私が行なった評論をもとにして以下の文章にする。

林紓が現在にいたるまで批判されている理由のひとつは、シェイクスピアとイプセンについて、原作の戯曲を小説に書き換えて翻訳したことだ。しかし、それは事実ではない。私は、林訳の底本を探しあてた。クイラー=クーチとデルの英文小説化本を提出して、林訳批判が誤りであることを証明した。ありもしない罪で林紓に濡れ衣を着せたのだから、これは冤罪事件である。

瀬戸宏の報告を聞いて、私は大変おも

つぎの通り報告があった。

大会名：日本現代中国学会2008年度

関西西部会大会 文学分科会

報告者：瀬戸宏(摂南大学)

論 題：林紓のシェイクスピア観

林紓は冤罪か

しろく感じた。

シェイクスピア、イブセンといえは中国話劇研究者の瀬戸宏にとっては専門分野だ。だが、瀬戸宏は、クイラー=クーチやデルの原作があるなどとは想像すらしたこともなかったのだろう。本来ならば、中国話劇研究の専門家である自分(瀬戸宏)がやるべき仕事、あるいはやりたかったことを樽本に先をこされてやられてしまった。瀬戸宏がいただく「くやしさ」、「くやしい」という強い気持ち、先ほど行なわれた報告の言葉のひとつひとつに込められている。ピシバシと私に伝わってきた。私がおもしろく感じないわけがない。

私は行なわれた報告を評論するにあたり、瀬戸宏にいくつかの事実を確認した。その場のやりとりをまじえながら述べることにする。ただし、ここに書いてあるすべてが問答になって実現されたという意味ではない。カッコの中などは、私の考えをのべた部分もある。おおよその状況であるをご了解いただきたい。

以下の質問に「はい」か「いいえ×」で答えてほしい。

質問1：樽本『林紓冤罪事件簿』は読んだか 瀬戸宏（樽本：瀬戸宏は、付箋をつけてまで読んだという。そんなことは質問していない）

林訳について具体的に聞く。

質問2：『吟辺燕語』は見たか 瀬戸宏（ちなみにその版本は何年発行か 配付資料10頁「林訳小説叢書」1914年版。樽本：紙型を使って同じだから

初版でもなくてもかまわない）

質問3：ラム『シェイクスピア物語』

原本は見たか 瀬戸宏

質問4：林訳シェイクスピア歴史劇（「凱徹遺事」ジュリアス・シーザーなど）『小説月報』掲載は見たか 瀬戸宏（配付資料11頁「雷差得紀」）

底本について聞く。

質問5：林訳シェイクスピア歴史劇の底本クイラー=クーチ版は見たか 瀬戸宏×（樽本：参考までに。クイラー=クーチ A.T.Quiller-Couch『シェイクスピア歴史物語 Historical Tales From Shakespeare』1899）

ついでに林訳イブセンについても質問する。

質問6：林訳イブセンの『梅孽』（商務印書館説部叢書）は見たか 瀬戸宏（配付資料12頁）

質問7：林訳イブセンの底本デル版は見たか 瀬戸宏×（樽本：参考までに。ドレイコット・M・デル Draycot M. Dell 著『イブセンの「幽霊」物語 IBSEN'S "GHOSTS" Adapted as a Story』1920）

以上の質問は、瀬戸宏が報告するにあたり資料をどれくらい把握しているかを確認するためであった。

資料を見た読んだといっても、それは必ずしも理解したことを意味しない。

私がクイラー=クーチ、デルの原本があることを指摘したのは今回の報告からさかのぼって約1年前だ。それだけの時間がありながら、瀬戸宏は英文原本を入手していない。私が明らかにした林紓冤

罪事件の核心ともいうべき箇所を無視したのと同じだ。瀬戸宏は、それで「林紓は冤罪か」と題して反論しようという。クイラー=クーチ、デルを抜きにして林紓は有罪だと瀬戸宏は主張する。それが成立するはずがない。この段階で、私はまずあきれろ。

さて、これからが本題だ。

瀬戸宏報告の表題になっている「林紓のシェイクスピア観」に的を絞って検討する。(的を絞ったのは、評論するための時間には制限があったからだ。瀬戸宏は、副題について林紓が有罪であるとあれこれしゃべった。いずれも愚にもつかぬ内容だ。いちいち反論するまでもない)

瀬戸宏の報告には、あやふやなところが多い。説明がない。瀬戸宏本人がどのように理解しているのか、聞かされる私としては把握するのがむづかしい。そのつど確認が必要になるのもやむをえない。確認するとき、私が記録していること、このやりとりを公表すること、あとで語句の訂正を希望しても受け付けないことを説明した。瀬戸宏のこの時点における考え(熟考した結果を発表しているはずだ)を知りたいのであって、私の評論を聞いてから後の修正意見はこの問題については関係がないからだ。

質問8:「林紓は、戯曲と小説の区別ができていない」(「区別がつかない」論と略称する)というが、その根拠はなにか。瀬戸宏自身の考えを簡潔に述べてほしい。

瀬戸宏の回答 説明した。(樽本:説

明したのならもう1度簡潔に述べてほしいと重ねて要求した。だが、説明もなければ根拠についての回答もなかった。「区別がつかない」論は、林紓のシェイクスピア理解に関係して重要問題である。にもかかわらず瀬戸宏は考えたことがないらしい。そこに問題が存在するということがさえないようだ。いやな予感がする。私はムダ骨を折らされることになるのではないか)

質問9:瀬戸宏の配付資料2頁には、「林紓は『シェイクスピア物語』をシェイクスピアの詩の要約集だと理解している」と書いてある。その根拠はなにか。また、「シェイクスピアの詩の要約集」とはどういう意味か。

瀬戸宏の回答 シェイクスピア詩の梗概集だ。(樽本:説明になっていない。根拠についての回答はなかった)

質問10:『吟辺燕語』の林序に出てくる「詩」とはなにを指しているのか。瀬戸宏の考えを聞きたい。

瀬戸宏の回答 詩だ。(樽本:瀬戸宏は、イギリスの……、と説明しはじめたから私は遮った。林序にある「詩」はなにかと聞いているのだが、瀬戸宏は私の質問の意味が理解できなかったらしい。瀬戸宏は、「詩」と書いてあるからそのまま「詩」だと把握している。林序の文脈からして、その中身が現在とは異なる可能性があるなどとはまったく考えたこともないらしい。そこにある文章には何が書いてあるのか解説

しようという姿勢は最初からないのだ。林紓は理解していない。これがすでに答えとして事前に存在している。瀬戸宏は、自分がすでに持っているその考えを林序に押しつけているだけ)

宏はそれらをどう理解しているのか。それを明確にするために、関係語句を具体的に列挙する。私は瀬戸宏に日本語を当てようように求めた。あらかじめ用意しておいた私の考えを併記し、瀬戸宏の回答を示す。

林序には、重要語句がでてくる。瀬戸

林紓の語句	樽本の考え	瀬戸宏の回答
詩家之莎士比	戯曲家のシェイクスピア	詩人のシェイクスピア
莎氏之詩	シェイクスピアの戯曲	シェイクスピアの詩
莎士比筆記	『シェイクスピア物語』	シェイクスピアの随筆。訳語はあとで変更する可能性がある
莎詩之記事	シェイクスピア戯曲の物語、つまり『シェイクスピア物語』	シェイクスピア詩の内容、要約したもの
莎詩紀事	シェイクスピア戯曲物語、つまり『シェイクスピア物語』	シェイクスピア詩の内容、要約したもの

時間が限られているから手短に日本語訳をつけてほしい、と要求した。ところが、回答がでてこない。あれこれいいつくり、「訳語はあとで変更する可能性がある」といいだすしまつた。

上の質問は、瀬戸宏が林序を正確に読みとっているかを確認するためのものだ。しかし、結果は見てのとおり無惨だった。提出したものの半数は、日本語として理解できないものである。それをそのまま放置している。林序をまじめに読む姿勢は瀬戸宏にはないとわかる。

瀬戸宏報告の主題は、「林紓のシェイクスピア観」である。林紓のシェイク

スピア理解は、この林序の中にこそ示されている。だが、この重要な文章を読むにあたって、的確な日本語をつけるという普通の考えが瀬戸宏にはない。原文を読み込めば、自然と日本語が浮かんできて定着するだろう。訳語が動くというのは、内容の把握が瀬戸宏の中で揺らいでいるという証拠だ。瀬戸宏は、林序をどう読んだというのだろうか。無茶苦茶だ。そうだろうな、とは予想していた。だが、目前に現実として出現すると、私はやはり少し驚く。

林序の最後部分につぎのようにある。

莎詩紀事。伝本至夥。互校頗有同異。

且有去取。此本所収僅二十則。余一製為新名。以標其目 [樽本訳：『シェイクスピア物語』は、伝本がきわめて多い。比較すると異同がはなはだ多く、取捨選択している。この本は20作を収録しているだけだ。私はそれらに新しい名をつけて題目とする]。

私の訳をつけておいた。

質問11：「莎詩紀事。伝本至夥」は、どういう意味か。瀬戸宏の見解を聞きたい。

瀬戸宏の回答 シェイクスピア詩の要約集は伝本が多い。(樽本：意味不明。瀬戸宏は、「詩の要約集」の中身を説明しない。これでは理解するのがむづかしい)

私が読めば、「『シェイクスピア物語』は、伝本がきわめて多い」とはっきり書いてある。この事実に注目してほしい。

『シェイクスピア物語』は、ラム版しかないというわけではない。ラムとは別人の手によって小説化され、よく似た書名で複数が刊行されている。林紓らは、漢訳にあたりラム版を含めた『シェイクスピア物語』の版本を複数集めていた。それらを比較検討した。そのなかからラム版を特別に選択していることがわかる。林紓らは、準備を十分に行なって翻訳をした。一般に伝えられるような、偶然のようにして気

軽に翻訳したデタラメなものではない。瀬戸宏にはそれが理解できていないのだ。

いよいよ私の評論の重要箇所にかかってきた。

理解の分かれ目は、林序で使われている原文の「詩」である。この単語をどう理解するのか。現在の感覚でそのままの詩であると考えたと誤る。要点さえわかれば、それほど難しいことではない。

『吟辺燕語』の林序を普通に読むと、林紓の用いる原文の「詩」は、現在でいうところの「戯曲」であるとわかる。

原文の「詩」を戯曲と置き換え、使用されている用語をそのまま分類すると、上記のようにシェイクスピア戯曲とラムの『シェイクスピア物語』は林紓によって厳密に区別されていることが明白だ。

ところが、瀬戸宏に確認したところ、上に示したように日本語が混乱している。これでは、瀬戸宏自身が何も理解していないといわれてもしかたがない。

林紓は、シェイクスピア戯曲とラム小説を区別していながら、両者の関係を説明しなかった。それだけのことだ。

当時、そうするのは彼だけではない。

王国維「シェイクスピア伝 [莎士比伝]」(『教育世界』第159号1907.10初出未見。姚淦銘、王燕編『王国維文集』第3巻北京・中国文史出版社1997.5。392-397頁)がある。

該論文で示された一覧表が興味深い。シェイクスピア戯曲の題名を掲げて喜

劇、史劇、悲劇などと注記したものだ。

王国維はシェイクスピアの作品全体を指して「劇詩」と表記している。戯曲である。それよりほかに解釈のしようがないだろう。

注目されるのは、シェイクスピア戯曲を説明して林訳の題名を添えるのである。

たとえば次のように書いている。

“The Comedy of Errors.” 閩県林紓  
訳作《學誤》一五九一年

この一覧表は、シェイクスピア作品の英文原題に添えて林訳『吟辺燕語』の20作品をすべて掲げる。

さらに、シェイクスピアをさして「大詩人」とも書いている。戯曲家、劇作家という意味で「詩人」を使用しているのは明らかだ。

以上を見れば、私がくどくどと解説するまでもない。林紓が書いているシェイクスピアの「詩」は、今でいう戯曲を意味していた。戯曲とラムの小説を区別しながら、シェイクスピアの名前で表示しただけ。

くりかえす。王国維も、シェイクスピア戯曲と林訳『吟辺燕語』、すなわちラム『シェイクスピア物語』を区別しながら、シェイクスピアという名称で一括りにしている。それが、普通の把握のしかただった。

中国話劇研究の専門家である瀬戸宏は、王国維が「シェイクスピア伝」を書いていることを知らないわけがない

と私は思った。念のために確認した。

質問12：王国維「シェイクスピア伝  
[莎士比伝]」は見たか 瀬戸宏

王国維論文を知っているのならば、そこに見える王の把握のしかたがわかっていなければならない。

瀬戸宏は、該論文を見たという。だが、肝要な箇所に気づかなかった。奇妙なことだといわなければならない。これほど明らかに書かれているにもかかわらずだ。読んだが理解しなかった。その結果、当時の文献、すなわち林序を読むための基礎知識を瀬戸宏は獲得しそこなったのである。基礎知識がなければ、林序に書かれた内容を正確に解釈することができないのも無理はない。中国話劇研究の専門家である瀬戸宏に、その基礎知識がないという事実があらためて私をア然とさせる。

林紓が序で使用した「莎詩紀事」という用語は、のちに形をかえてそのまま使用されている。すなわち、東潤(朱世溱)「莎氏楽府談」(『太平洋』1917年連載)である(この論文について瀬戸宏に確認する時間は残っていなかった)。

朱東潤は、この長編評論においてラム『シェイクスピア物語』を指して『莎氏楽府本事』と表記する。林紓の用語と対照すれば(林/朱の順)、莎/莎氏、詩/楽府、紀事/本事と対応しているのだ。

いうまでもなく、朱論文の表題「莎氏楽府」はシェイクスピア戯曲を意味

している(朱が使用する単語は、ほかに劇、劇本、戯曲家など)。

重要な点だ。瀬戸宏は、林序にでてくる「詩」を、現在の認識でそのままの詩だと考えた。ゆえに、瀬戸宏は、林序にでてくるシェイクスピア戯曲とラム『シェイクスピア物語』が厳密に区別されていることを理解することができない。結果として、林序に書かれている内容がわかっていない。

質問13: 林紓は、はたしてシェイクスピア戯曲を知らなかったのか。シェイクスピア戯曲を読んだことがなかったのか(ここは、共訳者から口述翻訳をされなかったのか、という意味だ)。瀬戸宏の考えを聞きたい。考えの根拠もあわせて示してほしい。  
瀬戸宏の回答 知っていた。認識はあった。

瀬戸宏の説明によると、林紓は「シェイクスピア戯曲を知っていた」が「戯曲と小説の区別がついていない」ということになる。知っていたが区別がつかない。これは論理矛盾である。

瀬戸宏は、鄭振鐸のことは「林紓はおそらく戯曲と小説の区別があまり理解できていなかった」(配付資料8頁)を引用している。また、瀬戸宏本人も、「林紓自身が戯曲と小説の本質的な相違を区別ができなかった」(配付資料4頁)、また「林紓は戯曲と小説の本質的な違いが理解できず」(配付資料8頁)、とくり返して主張している。瀬戸宏は、鄭

振鐸の書くままを引き写しただけ。

この説明と質問13の瀬戸宏の回答をあわせ見ると、その不可解であることがはっきりする。

林紓にはシェイクスピア戯曲だという認識はあった、だがラム小説との区別がつかない。なぜ、こういう説明になるのか。論理として成立しないではないか。

質問8でも説明を求めたが、瀬戸宏からの回答はなかった。「区別がつかない」論について、その内容に問題があると思ったことはない。だから、回答できないのは当然だ。鄭振鐸論文を後追いするだけの瀬戸宏には、とうとう最後まで自分で考えるという習慣は身につかなかっただけ。気の毒なことだった。

林紓は、林序においてシェイクスピアの戯曲とラムの小説を厳密に区別している。鄭振鐸らは、林序を読んでいるにもかかわらず、林紓が戯曲と小説の区別ができなかったとわけのわからぬ非難をした。これこそ林紓に濡れ衣を着せている証拠にほかならない。鄭振鐸説を疑わない瀬戸宏も同じである。

林紓が戯曲と小説の区別をしたうえで、両者をうまく利用して漢訳している箇所を紹介する。

瀬戸宏は、ラム『シェイクスピア物語』の英文原本は見ている。『吟辺燕語』も見ている。ならば、ラム版「十二夜」の林訳にはシェイクスピア戯曲を読まなければ書けない部分があることを知っているだろう。瀬戸宏は、なぜそ

れを隠すのか。それとも、訳文を比較対照したことがなく、その事実を知らないというのだろうか。瀬戸宏は、両書の部分については比較対照したと答えた。ということは、「十二夜」について特に考察したということではないらしい。

瀬戸宏は、林訳シェイクスピア歴史劇(「凱徹遺事」ジュリアス・シーザーなど)『小説月報』掲載は見ている。だが、林訳の底本であるクイラー=クーチ版は見していない。

ならば、林訳「ジュリアス・シーザー」の前3分の1がクイラー=クーチ版で残りの3分の2がシェイクスピア戯曲そのままであるという事実を知らないということだ。

林紓は、シェイクスピア戯曲とラム『シェイクスピア物語』を区別している。それどころか、シェイクスピア戯曲を読んで(上と同じく、共訳者が口述翻訳したという意味)それを翻訳に取り入れている。

林紓は、シェイクスピア戯曲とラムの関係を理解していたが、説明しなかった。それを瀬戸宏は、林紓は何もしらない、と罵る。罵る瀬戸宏のほうが、何も知らない。中国の知識人をバカにするにもほどがある。林紓に対して、これほど失礼なことはない。

劉半農、鄭振鐸も同様だ。彼らは、林紓は戯曲と小説の区別がつかないと勝手に解釈して非難の根拠とした。劉鄭は、最初から林紓を批判する意図をもって文章を書いている。林訳をまじ

めに検討していない。

もういちど説明する。瀬戸宏は、林紓はシェイクスピアの戯曲を知っていた、という。

シェイクスピア戯曲とラム小説が別々にあると知っていて、その区別がつかなかった、と瀬戸宏はいうのだ。これは、論理的に破綻している。支離滅裂なのである。こういう論理として成立しないモノを振り回す報告に、私はなぜつきあわなくてはならないのだろうか。

瀬戸宏は中国話劇研究の専門家だ。私の知らない資料を持っていて、瀬戸宏はそれを根拠に林紓の有罪を証明しようとしているらしい。私に評論員をするよう電話をしてきた宇野木洋(立命館大学)が、「副題「林紓は冤罪か」が刺激的です」といってそのようにほのめかした。私は、そうかと思い瀬戸宏報告について評論(コメント)することを引き受けた(私はその時点で瀬戸宏に対する判断が甘かった。後悔している)。

だが、瀬戸宏の報告を聞けば、これはズサンという程度を越えていると私は判断せざるをえない。

私は林紓冤罪事件に取り組んで、今も複数の作業を並行して継続実行している。結果のすべてを公表しているわけではない。

その中のひとつは、『吟辺燕語』林序の検討である(別稿参照)。

私は、すでにその作業を終えていた。瀬戸宏報告を聞くはるか前である。林紓のシェイクスピア理解は、この林序



のなかにこそあるとわかっている。中国人研究者の多くが、あの研究の権威である阿英を含めて林序を誤読しているのだ。瀬戸宏が独自に正しい理解に到達できるとは、私は期待もしていないし想像もしたことはない。それにしても、まさか支離滅裂であろうとは考えもしなかった。瀬戸宏みずからの専門分野においてすらこういう有様だ。

瀬戸宏は、新しい資料をなにも提出していない。昔からの資料を使ってもかまわない。新しい解釈をだせばそれはそれで価値がある。だが、瀬戸宏の報告は、昔ながらの資料を使って昔ながらの結論になっているだけだ。「新しい発見」はないのである。そういうものを発表する意味はあるのか。

瀬戸宏は、私の展開した林紓冤罪論に反論したいという意志は強烈に保持している。なにしろ眼を紅くして報告するのだ。だが、反論するために必要な準備が、瀬戸宏には決定的に不足している。準備不足どころか、論理を組み立てることができない。

瀬戸宏は、『吟辺燕語』の林序そのものは見たのだろう。だが、内容を理解することはできなかつた。基礎知識がないのだから、わかるはずがない。

瀬戸宏は、最初から林紓を批判する意図だけをもつ。批判する考えだから、林序をまじめに読むつもりがない。原文の重要語句に日本語訳を満足につけることができないところに表われている。瀬戸宏が報告の主題にした「林紓のシェイクスピア観」が、結果として

内容のないものになるのは当然だ。瀬戸宏報告は、発表する価値も意味もない。

瀬戸宏は、『吟辺燕語』とラム『シェイクスピア物語』を十分に比較対照することもしていない。クイラー=クーチ(ヤデル)の原本を入手していない。

批判する時には相手が持っている資料は自分でも用意するのが常識ではないのか。瀬戸宏には、その最低の常識さえない。

私は、新しい資料を提出して林紓は冤罪だと証明した。だが、瀬戸宏はそれを認めることができず、あるいは認める意志を持たず、あいもかわらず「林紓を罵る快楽」を貪りたいらしい。どうぞ勝手に快楽におふけりください。

2007年に名古屋大学で開催された日本中国学会において私は報告した。瀬戸宏は、それを聞いている。起立して発言までした。私の『林紓冤罪事件簿』も読んでいるらしい。私の指摘が重要であることを瀬戸宏は少しは感じたものか。

瀬戸宏は、私が提出した「新しい発見」を過小評価し、できることならナシにしたいらしい。それには力はいると見える。従来通説、つまり現代中国における「勝者による文学史」を後生大事に守り通したいのだろう。その立場に自分自身を設定しているのである。

瀬戸宏にとっては、文学革命派による林紓批判がすでに当然のように前提として動かずに存在している。だから、

それを否定する樽本説には脊髄反射して反対なのだ。反論することを事前に決めている。それにあわせて資料を収集したつもりだ。だが基礎知識が不十分であった。資料を読み解くことができない。瀬戸宏にできることといえば、従来の研究をなぞるしかない。新しい見解がでてくる可能性はないのである。はるか昔から継承されてきた旧説、正しくない通説、誤った俗説、間違っただ定説をくり返すだけだ。これが研究だろうか。

それにしても、これはなんだろう。私は証拠となる資料を提出して林紓は無罪だといっている。しかし、瀬戸宏は新しい資料はなにもださずに林紓の冤罪を否定し、林紓はやはり有罪であると臆面もなく主張する。瀬戸宏は、自分が何をやっているのか理解していないのではないか。林紓に濡れ衣を着せつづける。瀬戸宏のこの情熱は、いったいどこからでてくるのだろうか。大胆不敵厚顔無恥というのがあてはまる。

瀬戸宏の報告を聞いて、『林紓冤罪事件簿』を刊行した意味があったことを私は確信した。私の著書は、それら旧説通説俗説定説を粉碎するのが目的であるからだ。

瀬戸宏の報告は、口頭発表する価値のないものである。このような内容のない発表に私はつきあわされてしまった。私の大切な時間を浪費させられたことについて、虚脱感すらいだく。抗議の意味をこめて、私はその日のうちに日本現代中国学会を脱会した。 罇

樽本照雄 『林紓研究論集』 刊行予告  
A5判 上製 箱入り 409頁 限定150部 定価：8,400円  
阿英による林紓冤罪事件 『吟辺燕語』  
序をめぐって  
林訳「ハムレット」 『吟辺燕語』から  
ラム版『シェイクスピア物語』最初の漢訳  
と林訳 「十二夜」を中心に  
林訳シェイクスピア クイラー=クーチ版  
「ジュリアス・シーザー」  
林訳チョーサー  
林訳ユゴー  
中国現代文学史における林紓の位置  
林紓落魄伝説  
陳独秀の北京大学罷免 『林紓冤罪事件簿』補遺  
そのほか

『清末小説』第31号

原原本本(二題) ..... 范 伯群  
阿英による林紓冤罪事件..... 樽本照雄  
林譯遺稿及《林紓翻譯小説  
未刊九種》評介 ..... 馬 泰來  
通俗與經典的錯位 中國近代讀者  
視域中的柯南·道爾、哈葛德、凡爾  
納與大仲馬 ..... 郝 嵐  
The Thinking Machine の中国語訳  
..... 渡辺浩司  
『林紓冤罪事件簿』ができるまで  
..... 樽本照雄  
周作人が魯迅を回想して林紓に言及する  
..... 沢本香子  
李伯元遺稿(10)

《滑稽小説 紙牌》の原作

渡辺浩司

1

《中華小説界》第一年第一期(中華書局,1914年1月1日)に《滑稽小説 紙牌》なる短篇小説が掲載された。書名の下には、「英蜚」「餅庵」と訳者のみ記されており、原作については何も書かれていない。

この作品の原作が判明したので、本稿でそれを報告したい。

訳者「英蜚」については未詳。「餅庵」も不明であるが、陳玉堂編著《中国近現代人物名号大辞典》の“沈其光”項に、“1914年編輯《中華小説界》者，名沈瓶庵，疑是一人，存考。”(1914年《中華小説界》を編集した沈瓶庵は、同一人物か、待考)とある(412頁)\*1。

原作は、Richard Marsh 『A Pack of Cards』(初出未詳,短篇集『The Seen and the Unseen』(Methuen,1900年)所収)である\*2。

Richard Marshは、本名Richard Bernard Heldmann、1857年生まれ、1915年没、イギリスの作家で、ジャーナリストであったともいう。短篇集も含めて約80もの

著作がある\*3。

2

『A Pack of Cards』は、主人公 Ranken の一人称で語られる。あらすじを紹介する。

ロンドンの Scotland Yard の Rogues' Museum を見学していた私(Ranken)は、案内役の巡査から陳列品の Francis Farmer のトランプと Farmer 自身について説明を受ける；ロンドン中心部と Brighton の間の列車内でそのトランプを使いお金を賭け、しばしば勝っていたこと；その車内で賭博中にいかさまを見抜いた人を撃ち、殺人未遂で捕まり監房内で自殺したこと；そのトランプには彼の霊が取り付いていると言われていること等々。

見学後、私は昼食をとり、2:30発の Brighton 行列車に乗った。私の向かいに二人の男(Armitage と Burchell)が座り、別の男が、私と顔が合う方向で端の方に座った。発車後、向かいの一人が声をかけてきた。その男は二三日前の夕食会で隣に座った男で、頭の回転が速く、冗談好きな男だった。列車が遅いという話の時に、私は Farmer のことを思い出し、トランプを持っていないのが残念だと言う。その際、上着のポケットに手を入れると、何か入っているのに気付き、取り出したところ、それはなんと Farmer のトランプだった。

結局、三人でそのトランプを使って勝負することになり、私の一人勝ちになった。60ポンド勝ったところで、端に座っていた男がやってきて、これはいかさま

だと言い、トランプの来歴について私に話そう言った。私はそれが知らぬ間にポケットに入っていたこと等を話し、60ポンドを二人に返す。その男は更に、カードの枚数を確認させ、勝負に使っていたのは47枚だけで、私の別のポケットから5枚見つかる。向かいの二人は、弁解できなくなった私とその男を残し、途中で下車する。

二人になったところで、その男は Farmer だと名乗る。彼は Museum からずっと私といっしょにいたと言い、私に対して自分の後継になるよう言う。また、この車両は彼が John Osborn を撃った場所だと言い、当時の状況を説明したり、発見されなかった弾丸を座席から見つけてみせたりした。すっかり信じてしまった私が、ちょうど停車した駅で下りようとした時、先ほどの二人が入ってくる。必死で説明する私に対して、二人は笑い出し、Farmer 役の男 (Bateman) を紹介し、すべて三人で仕組んだいたずらだと告げる。それならばと、私は勝っていた60ポンドを返すよう要求し、そのお金は記念に the Home for Lost Dogs に寄付すると言う。二人は仕方なく支払った。

怪奇ものと見せかけたユーモア小説である。「私 (Ranken)」が走行中の車内という脱出不可能の空間で恐怖を感じ、それが次第に強まっていく様子が丁寧に描かれている。

最初に、Farmer が裁かれたのは“attempted murder”(殺人未遂)によるとあるが(46頁)、後半では、銃で John

Osborn の目を撃ち、弾は脳まで達しただろうと言っている(61頁)。「殺した」とは言っていないので、矛盾とはいえないが、車内で顔面を至近距離から撃たれて、当時の医療技術で生き残れるのだろうか、疑問を感じる。また、Farmer の自殺について述べる個所で、首についたロープの跡と胸に刺したナイフの跡を見て下さいとあるが(58頁)、片方で十分ではないか、逆に言えば、両方はできないのではないかと思う。あるいは、一度、未遂があったと考えるべきか。以上のように、すっきりと話の通らないところもある。

### 3

中国語訳について述べる。他にも訳されていた場合の参考にできると思うので、主な固有名詞の対照表を掲げる。

原文	中国語訳
Ranken	蘭根
Francis Farmer	福蘭司 法麥
Armitage	哀美脱其
Burchell	鮑雀而
Bateman	勃脱門
Scotland Yard	蘇格蘭 場
Brighton	勃里頓

書名で“滑稽小説”とあり、更に冒頭の加筆で、

回想起來。倒也好笑。(1頁,句点は原文のまま)

(思い出すと、逆に笑えることであった)

とあり、最後まで伏せておくべき内容を明かしてしまっている。

翻訳の出来については、まず省略が多いことが言える。途中の物語を変えてはいいないが、「私」に関する描写がかなり省かれているので、「私」が恐怖感を増していく様子が楽しめなくなっている。

次に、最後を大きく変えてしまっている。原文と中国語訳を示す。なお、原文の日本語訳は、岸村五郎訳『魔のランプ』(『新趣味』17-2, 博文館, 1922年2月1日)を参照した。

“ I have only one thing to say to you, since your idea of what constitutes a joke seems to be so radically different to mine, and that is to remind you that you have been guilty of this extraordinary behaviour towards an entire stranger. ”

“ Not an entire stranger! ”

“ Yes, sir, an entire stranger! ”

“ But henceforth one whom I hope to be allowed to call a friend. ”

He had the assurance to offer me, with an insinuating smile, his hand. I put my hands behind my back. (66頁)

(「一つだけ君に言うことがある、ジョークについての君の考え方は私とは根本的に違っているようだ、君は異常なこの悪行を全くの他人に向

かってやってしまったことに気付くべきだ。」

「全くの他人ではないでしょう！」

「いや、全くの他人だ！」

「しかし、これからは友人と呼んでも許される一人としてよろしく頼みます。」

彼は図々しくも、媚びるような笑顔で手を差し出した。私は手を後ろに引っ込めた。)

我又言曰：“ 你們此番戲弄我。實出我意料之外。但是你們於素不相識之人。弄此元虛。未免有傷道德。”

鮑雀而曰：“ 我同你向來認識的。” 隨即向我拉手。

我將手縮回身後。曰：“ 你得認我。我不認得你。”

鮑雀而曰：“ 你不認得我。何以上火車後。你招呼我。承認我爲朋友。你真不認識我及哀美脫其麼。請你細細的看一看。”

我注視良久。恍然大悟。原來自稱爲哀美脫其者。就是我友……<sup>マ</sup>。自稱爲鮑雀而者。就是我友……<sup>マ</sup>。唉。不必多說了。(14頁, コロン・引用符は補った)

(私はまた「君たちは今回私をからかったが、本当に私にとって予想外だった。しかし、君たちは全くの他人にこんなでたらめをやらかして、道徳心に欠けていると言わざるを得ない。」

鮑雀而は「あなたとは前に知り合

っていました。」と言い、そのまま私と握手しようとした。

私は手を後ろに引っ込め、「君は私を知っているというが、私は君を知らない。」

鮑雀而は「あなたが私を知らないなら、どうして乗車後に、あなたの方から私に声をかけて、友人と認めたのですか。本当に私と哀美脱其に見覚えがないのですか。しっかりと見て下さい。」

私はしばらくじっと見た、はっと思い出した。なんと哀美脱其と名乗っていたのは私の友人の……で、鮑雀而と名乗っていたのは私の友人の……だった。ああ、もうこれ以上何も言うことはない。)

中国語訳は「私」の友達がいたずらを仕掛けたことに変えてしまっている。不必要な変更だと思うのだが、こうするとより“滑稽”になるとでも考えたのだろう。なお、原作も中国語訳も実際に声をかけたのは、「私」からではない。

そして一番最後の部分は以下のようになっている。

“A joke may be made a little expensive,” murmured Mr. Burchell, as he counted out the coin.

“And the laugh, after all, be on the other side,” said Mr. Armitage.

“The laugh,” I answered, as I received my winnings, “is with the curs.”(67頁)

(「ジョークが少し高価なものになったかもしれない」硬貨を数えながら、Burchell はこぼした。

「で、笑いも結局は、そちらの方に行ってしまったかもしれない」Armitage は言った。

勝ち分を受け取って、私は答えた「笑いは野良犬たちのところさ。)」

鮑雀而出革囊。一面點金磅。一面自語曰：“一遊戲的事。要費偌大金錢。”

哀美脱其亦曰：“錢已還你。你可快樂矣。”

其時火車已到勃里頓。我收拾紙牌金磅行杖。一點首曰：“我有事。我先回。讓你們再預備點金磅。做第二次的遊戲。好麼。”(14頁)

(鮑雀而は革の袋を取り出し、お金を数えながら、つぶやいた「お遊びがこんなに費用がかかるとは。」

哀美脱其も「お金はもう返したのだから、あなたは気分がいいでしょう。」

その時、汽車は勃里頓に着いた。私はトランプ、お金、ステッキを片付けて、うなずき「用があるので、私は先に帰ります。君たちにまたお金を用意してもらって、第二回のゲームをやりましょうか。)」

前に三人を友達に変えたので、友達同士で近々会った時に2回目をやろう、としたのだろう。ただ、この変更も不必要に思える。

誤りも見られる。一例を挙げておく。「私」と後に Farmer と自称する男が二人、車内に残った場面である。

“ Well, and how do you feel? ”

“ Feel! God forgive me, but I feel as though I should like to kill you. ”

He put up his hand and stroked his beardless chin.

“ Yes, that is how I used to feel at first. ”

“ What do you mean? ”

He leaned forward and looked me keenly in the face.

“ Do you not know me? ”

I paused before I answered. So far as my recollection went his face was strange to me. Still, my memory might err.

“ Is it possible that we have met before? Can I have given you any, even the slightest, cause to do this thing? ”(56頁)

(「さあ、君はどんな感じだ?」

「感じだって! 神よ許したまえ、だが私はお前を殺したい感じだよ。」

彼は手を上げ、ひげの無いあごをさすった。

「そうだな、最初はそんなふうに感じたよ。」

「どういう意味だ?」

彼は前かがみになり、鋭く私を見た。

「私にわからないのかね?」

私は答える前に躊躇した。私の記憶では、彼の顔は知らない。しかし、記憶が間違っているかもしれない。

「前に会ったことがあるとでも言うのか? こんなことをされるような何か - どんな些細なことでも - を私が君にしたのか?」)

彼曰: “ 你意中究要如何。 ”

彼曰: “ 我麼。我恨不立刻置你於死。以洩我恨。 ”

彼曰: “ 你恨我至於如此。你究竟認識我否。 ”

我當時聞其言之奇特。注意一看。始知並非前此之客。另是一人。急起謝過。曰: “ 我誤認。請恕罪。 ”(9頁)

(彼は「結局、君はどういう気分だ。」

私は「私? 私はすぐにでもお前を殺して恨みを晴らしたいよ。」

彼は「君はそこまで私を恨んでいるのか、君は私のことがわかっているのか。」

その時、彼の言葉が奇妙だったので、私は注意して見た。前にいた乗客ではなく、別の人だとわかったので、すぐに立ち上がり詫言を入れ「間違っていました、どうかお許しを。」)

当初、車両には四人しかおらず、二人が降りたので、残りは二人のはずなのに誰と見誤るのだろうか。つじつまの合わ

ない誤解である。

もう一点、カードの枚数を確認する場面で、原文は、47枚でゲームをし、残りの5枚を「私」が隠し持っていたことになっている。しかし、中国語訳は、48枚でゲームをし、「私」は4枚隠していたとあり、1枚分ずれが生じている。この点については、日本語訳も中国語訳と同じく、48:4としている。48:4になっている英文原作があるのだろうか。原作の版本探索については今後の課題としたい。

#### 4

短篇集(1900年)所収の原作から翻訳されたと仮定して、中国語訳が1914年1月、日本語訳が1922年2月に発表されている。現在判明している限りでは、ともに短篇集所収の12作の中から、最初に選ばれ、翻訳されたものである\*4。傑作とされている『The Houseboat』、『A Psychological Experiment』(『幻想文学大事典』は“A”を“The”に作る、短篇集により訂正)、『The Photographs』の3作\*5を差し置いて、両国でまずこの『A Pack of Cards』が選ばれたことは、面白い感じがする。罍

#### 【注】

- 1) 同じく《中国近現代人物名号大辞典》によると、翁同龢の号にも“瓶庵”があるが、1904年没なので、年が合わない。
- 2) 本稿では、Valancourt Books、2007年6月版の『The Seen and the Unseen』を使用した。

- 3) 生年については、1867年とするものもある；荒俣宏『世界幻想作家事典』、戸川安宣「あとがき」(リチャード・マーシュ著、榊優子訳『黄金虫』所収)。
- 4) 中国語訳については、他に訳されたものがあるか不明。日本語訳については、『The Tipster - An Impossible Story』が、『屋根裏の豫言者』(訳者不記)として、『新青年』11-3(博文館、1930.2.15)に掲載されている。
- 5) Hugh Lamb 執筆、川本ゆかり訳「マーシュ、リチャード」項(ジャック・サリヴァン編『幻想文学大事典』)による。

#### 【参考文献・ホームページ(HP)】

- 陳玉堂編著《中国近現代人物名号大辞典》浙江古籍出版社、1993年5月
- Scot Peacock(Project Editor)『Contemporary Authors』Volume215,Gale,2004年
- ジャック・サリヴァン編、高山宏・風間賢二日本版監修『幻想文学大事典』国書刊行会、1999年2月20日(- Jack Sullivan 編『The Penguin Encyclopedia of Horror and the Supernatural』1986年の日本語訳)
- 荒俣宏『世界幻想作家事典』国書刊行会、1979年9月20日
- 押川曠「解説」- 押川曠編、乾信一郎訳『シャーロック・ホームズのライヴアルたち』早川書房、1983年10月15日/2000年9月15日二版所収
- 戸川安宣「あとがき」- リチャード・マーシュ著、榊優子訳『黄金虫』東京創



元社,1986年12月19日所収  
 William G. Contento 管理HP「The Fiction  
 Mags Index」  
<http://www.philsp.com/homeville/FMI/0start.htm> (2008年7月27日確認)

創業諸君」(宋原放主編、汪家熔輯注『中国出版史料・近代部分』第3卷 武漢・湖北教育出版社2004.10。126頁)だ。

これには、「商務印書館創業者的姻戚關係図」と表題がつけられている。

私が作成したのは間違いでない。だが、汪家熔氏の論文にもとづいている。一応図にしてみても、説明と一致しない部分が出た。汪氏に問い合わせ、訂正のうえで上のかたちになったのだ。

商務印書館創業者的の姻戚關係図(補遺)

そういういきさつがあったから『中国出版史料・近代部分』に収録されたのだろう。

私が浩然論文に注目するのは、自分が書いた図が紹介されているからではない。郭秉文についての新しい情報が書き加えられているからだ。以下にまとめる。

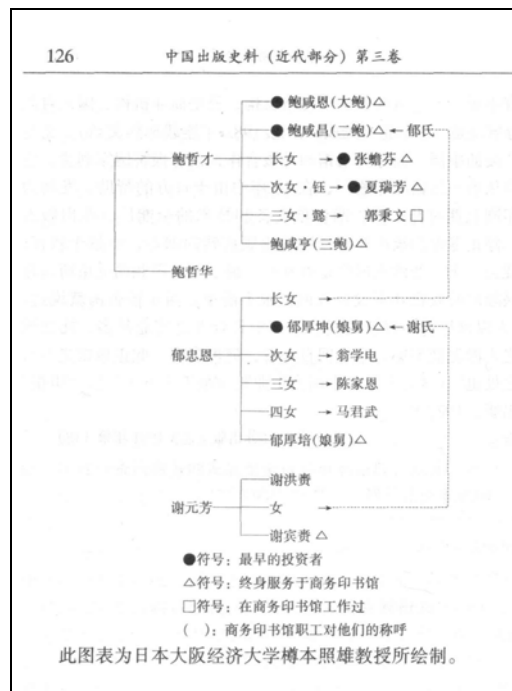
郭秉文は江蘇江浦の人。上海に生まれる。父親は、医者で長老会教会の長老だった。

郭は、1896年清新書院を卒業し、そのままとどまって1年間教えたあと、1908年にアメリカに留学し、1914年コロンビア大学博士号を取得。のち帰国し商務印書館の総編集となり、英語辞典翻訳に協力した。1921年東南大学(のちの国立中央大学)が成立すると校長に任命され、1925年、商務印書館の総編集に転任となる。鮑哲才の三女を娶っていたが彼女ははやくに亡くなり、夏瑞芳の三女路徳と結婚した。

郭の経歴については、私は知らなかった。浩然は教会関係者らしく、さすがに人事については詳しい。

おなじ文章に、謝洪賚の肖像が掲げられていることをつけ加える。 囧

(樽本照雄 2008.7.27。清末小説研究会ウェブサイトより)



浩然「商務籌創人的「聖徒相通」」(香港『基督教週報』第2263期2008.1.6 電字版)にうへの図が掲載されている。

たしかに私が作成した。樽本『初期商務印書館研究(増補版)』(2004。21頁)にも収録してある。

下部の説明文が中国語であるところから、わかる。その出所は、汪家熔「商務印書館

晚清小説作者扫描(拾柒)

武 禧

(零八零)

轩辕正裔

小説创作:《瓜分惨祸预言记》

轩辕正裔:(轩辕正裔、中江笃济,笔者所见资料未见著录)

(零八一)

犹太遗民万古恨 震旦女士自由花

小説创作:《自由结婚》

张肇同(1880-1938):江苏无锡人,字叶侯、翼后,号轶欧、一鸥、笔名自由花。托名“亡国遗民”,又做万古恨。辛亥革命前留学日本等为日本早稻田大学政治科学生、东京青年会发起者之一。建立“养成尚武精神,实行民族主义”的“军国民教育会”。又与秦毓鎰等创办《江苏》杂志,任记者。后去比利时,学习采矿冶金。任北京工商部代理采矿司长、政矿司长等。1928年后任国民政府工商部商业司长等。编辑有《中外故事读本》、《高等小学国文教科书》等由文明书局出版,翻译有《权利之争论》《男女交际论》等。

(零八二)

南亭亭长

小説创作:《文明小史》(著作见后)

李伯元(1867-1906):江苏武进人。原名宝凯、乳名凯,又名宝嘉。别署南亭、南亭亭长、南亭长者、芋香、二春居士、讴歌变俗人、溉花客、自在山民、游戏主人等。祖父李子芸,父翼辰。李伯元自幼由伯父李锡昆抚养。天资聪慧、兴趣广泛、多才多艺,曾举秀才为第一,然后累举不第。光绪辛丑开特科,湘乡曾慕涛举荐之而辞不赴。1896年到上海先创办《指南报》,不久改办《游戏报》,再办《世界繁华报》,遂有“小报鼻祖”之誉。又主编商务印书馆出版之《绣像小说》,为中国近代小説杂志之重镇。又创办海上文社并《海上文社日报》,海内才人,一时毕集。李伯元是中国近代小説创作影响最大的作家,也是中国职业小説家的第一人。对李伯元的介绍、评价百年来连篇累牍。与其同时代、同为小説家的吴趼人、孙玉声,翻译家周桂笙、出版家包天笑、历史学家顾颉刚、文学家胡适等都为之作传。以孙玉声评李伯元的文字最为简洁明了“小报之鼻祖也。为文典贍风华,得隽字诀。而最工游戏笔墨,如滑稽谈、打油诗之类,则得松字诀。又擅小説,形容一人一事,深入而能显出,罔不淋漓尽致,是又得刻字诀者。……笔墨之暇,喜以金石刻画自娱”。

李伯元以小説名世,著作甚丰,主要的小説作品(根据1997年薛正兴主编、江苏古籍出版社出版之《李伯元全集》)有《文明小史》《中国现在记》《官场现形记》《活地狱》《海天鸿雪记》《庚子国变弹词》《醒世

缘弹词》(翻译)《经国美谈》。根据樽本照雄《清末民初小说目录》的记录另有《冰山雪海》、《(绘图密本小说)义和团》《俗耳针砭》等。点评《二十年目睹之怪现状》。杂文类有《南亭笔记》《南亭四话》，又有诗词等若干，并有《芋香印谱》行世。

(零八三)

洗红盒主

小说创作：《泰西历史演义》

洗红盒主：(笔者未见任何著录)

(零八四)

我佛山人

小说创作：《二十年目睹之怪现状》(著作见后)

吴沃尧(1866-1910)：广东南海人。又名宝震，字小允，又字茧人、趺人。号我佛山人。笔名茧叟、茧翁、岭南茧叟、野史氏、检尘子、迪斋、佛、茧闇、老上海、老少年。另有抽丝主人、息影楼主等存疑。祖父吴尚志，父吴升福。吴沃尧出生于北京。1867年回到佛山。13岁在佛山书院求学。1882年17岁到上海落脚江裕昌茶号。后入江南机器制造局。1892年再去天津、北京。后回上海，结识李伯元并给《消闲报》《寓言报》等撰稿。1998年主持《采风报》，主要撰写游戏小品文等，并与后来成为著名翻译家的文友周桂笙成为挚友。1903年去汉口《汉口日报》工作，又去山东、日本，1905年回到汉口，任职于《楚报》。不久又回到上海参加反美爱国斗争，撰文演说，主编《月月小说》，写下许多反美的文章并写小说控诉美国政府对华劳工的剥削。晚

年参加广东同乡会，参与兴办教育。同时继续发表小说直到去世。吴沃尧是与李伯元齐名的晚清小说作者。从1903年在《新小说》杂志发表《二十年目睹之怪现状》，自此连续发表小说十多部。吴沃尧的小说内容与其经历有密切的关系。一是写他对社会的认识，写本人所亲见亲历之事，如《二十年目睹之怪现状》，写对新的社会的向往的《新石头记》。二是与当时历史事件有紧密联系的事件，如自署“苦情小说”的《劫余灰》，“挥泪”写成的《人镜学社鬼哭传等》。吴沃尧晚年的作品在写作方法上开始接受、吸收外国文艺的一些手法。因生活的压力及缺乏规律，1910年去世。有子早殇。一女吴铮铮。对吴沃尧的研究近百年始终未断，时人评价亦为数不少。孙玉声说吴沃尧“工诗词、能文章、奔放不羁，有长江大河之概，能道人所不能道，而又兼长小说。”

根据《吴趺人全集》(北方文艺出版社)《清末民初小说目录》(齐鲁出版社)等资料，知吴趺人撰写出版著作有：《八命奇冤》《二十年目睹之怪现状》《海上四大金刚奇书》《痛史》《发财秘诀》《电术奇谈》《恨海》《糊涂世界》《瞎编奇闻》《新繁华梦》《新石头记》《胡宝玉》《活地狱》《劫余灰》《近十年之怪现状》(《最近社会齷齪史》)《九命奇冤》《梁天来》《两晋演义》《剖心记》《情变》《情魔》《山阳巨案》《上海三十年艳记》《上海游踪录》《学界镜》《云南野乘》《中法战争怪现状》《中国侦探》《查功课》《快升官》《大改革》《立宪万岁》《预备立宪》《庆祝立宪》《无理取闹之西游记》《人镜学社鬼哭传》《光绪万岁》《平步青云》

《黑籍冤魂》《孽海》《新笑林广记》《义盗记》《笥记小说》。又有《俏皮话》《滑稽谈》《跼蹙笔记》《东鲁灵光跋》《我佛山人笔记》《吴趼人哭(57则)》等。剧本：《鄂烈士殉路》。点评：《毒蛇圈》《贾帛西鼓词》《情中情》《新庵译屑》《自由结婚》。编辑：《公主》《缶鼎问答》《蛤蟆太子》《狐受鹅愚》《狼负鹤德》《狼羊复仇》《林中三人》《猫鼠成亲》《猫与狐狸》《某翁》《十二兄弟》《乡人女》《渔者》《熊皮》《一斤肉》《一千零一夜》《乐师》《知新室译丛》。存疑：《盗侦探》《海漠侦探案》《红泪影》。

罇

中国近代文学研究『留得』第24期(2008.7)に『南社大詞典』が編集準備中とあります。第25期(2008.10)は、『也無風雨也無晴 滄榕書札』を特集。劉厚沢が兄劉蕙孫へ送った書簡集だそうです。ふたりとも劉鉄雲の孫に当ります。紹介によると『老残遊記資料』(1961)を編集した際の記録だとか。

清末小説から

- 范 軍 『中国出版文化史研究書録(1985-2006)』開封・河南大学出版社2008.1
- (美)韓南PATRICK HANAN著 李静訳 白話翻譯小説の第二個階段 王秋桂等訳『韓南中国小説論集』北京大学出版社2008.3
- 錢 振綱 『清末民国小説史論』石家莊・河北人民出版社2008.5

- 任 冬梅 科幻烏托邦：現實的与想像的《月球殖民地小説》和現代時空觀的轉變 『現代中国文化和文学』第5輯 2008.5
- 余 夏雲 鴛鴦蝴蝶派与新文学的鬭爭形態考察 同上
- 黄美娥著、羽田朝子訳 文学のモダニティの移植と伝播 日本統治期台湾の傳統文人による世界文学の受容・翻訳・模作 松浦恆雄、垂水千恵、廖炳恵、黄英哲編『越境するテキスト 東アジア文化・文学の新しい試み』研文出版2008.8.1
- 野村鮎子 新文学が駆逐したもの 黄美娥論文に寄せて 同上
- 吳 淳邦 英国伝教士傅蘭雅的《格致彙編》与晚清小説啓蒙活動 『吳宏一教授六秩晋五寿慶暨荣休論文集』台湾・里仁書局2008.7.28
- 黄 錦珠 晚清写情小説的情欲論述 以《新小説》、《月月小説》為中心 同上
- 瀬戸 宏 《澗外奇譚》について 『中国文芸研究会会報』第322号 2008.8.31
- 蔡 愛国 梁啓超与二十世紀歴史小説の発源 『明清小説研究』2008年第2期(總第88期)2008発行月日記

『清末小説から』第91号 2008.10.1

- 『劉鶚集』はよろしい ..... 樽本照雄
- 莎士比亞在1916年前的中国..... 郝 嵐
- 晚清小説作者掃描(拾陸) ..... 武 禧

陳錦谷編輯『林紓研究資料選編』上下冊 福建省文史研究館編2008.6

- 前言 ..... 盧美松
- 林紓 ..... 『福建省志・人物志』
- 生平与思想.....
- 林琴南先生 ..... 鄭振鐸
- 林琴南 ..... 寒 光
- 林紓論 ..... 任訪秋
- 林紓伝 ..... 曾憲輝

林琴南生平給其思想	.....吳家瓊	林訊《巴黎茶花女遺事》考	.....曾憲輝
“為君持酒勸斜陽，且向花間留晚照”		精神變異 人格分裂 從“林訊小說”	
古文大師兼為翻譯大師的奇人林紓	.....林 薇	看林紓思想	.....許東年
試論林紓的改良主義思想	.....張俊才	小說翻譯大家的小說理論	.....顏廷亮
左海畸人林畏廬	.....曾憲輝	《林紓翻譯小說未完九種》前言	.....李家驥
《林紓評傳》序	.....鄭朝宗	《林紓翻譯小說未完九種》後記	.....李茂肅、薛祥生
《林紓評傳》結語	.....張俊才	林紓與歐美名家名著	.....袁荻湧
畏廬生平述略	.....馬 寿	林紓的文學翻譯思想	.....袁荻湧
試說林紓	.....姜東賦	從林紓的翻譯說開去 談翻譯界的兩種	
林紓文學思想淺議	.....林躍峰	文化現象	.....鄭延國
“做人，先從愛國入手”	談林紓的愛	《迦茵小傳》和林紓的古文翻譯	.....張世濤
國主義思想	.....李茂肅	從《格列佛遊記》的兩種譯本看林紓的翻譯	.....董 英
林紓先生評傳	.....王森然	林訊小說序跋的文學史意義	.....孫之梅
試論林紓的愛國維新思想	...鄧華祥、蕭忠生	文學因緣：林紓眼中的狄更斯	.....葛桂錄、黃燕尤
林紓的復讐觀及其跨時代意義	.....王 立	林紓與“林訊小說”	.....趙光育
真誠的遺老 民初時期林紓思想重評	.....張光芒	現代西方俗文學的引介 論林紓翻譯的	
論林紓的士人品格	.....龔連英、姚建平	哈葛德小說	.....過麗莎
論林紓的歷史地位及其影響	.....韓洪學	論林紓的翻譯事業對新文化運動的貢獻	.....周曉莉
林紓的思想價值 試論其西方觀、婦女		林訊小說：世紀末的一個懸念	.....吳 俊
觀及身份危機	.....郝 嵐	林訊小說與林紓的文化選取	.....蘇桂寧
林訊與“林訊小說”	-----	論林紓“誤譯”的根源	.....尚文鵬
讀《黑奴籲天錄》	.....靈 石	“林訊小說”縱橫談	.....徐運漢
《歌洛克奇案》叙	.....陳熙績	論《巴黎茶花女遺事》對清末民初小說創	
讀《迦茵小傳》兩譯本書後	.....寅半生	作的影響	.....許海燕
近代翻譯小說及林紓	.....復旦大學中文系	從《黑奴籲天錄》看林紓翻譯的文化改寫	.....陳 燕
1956級《中國近代文學史》編寫組		林紓的翻譯小說與近代社會思潮	.....曹素璋
關於《巴黎茶花女遺事》	.....阿 英	林紓與嚴復散文、記述之比較	.....謝飄雲
林訊的原本	.....[香港]曾錦漳	林紓與龐德翻譯思想比較研究	.....祝朝偉
林訊的翻譯	.....錢鍾書	林紓與龐德翻譯中的接受環境	.....任 軍
林紓前記譯書思想管見	讀“林訊小	林紓的“口譯者”考	.....韓洪學
說”序跋雜記	.....薛 卓	論林紓翻譯小說的愛國動機	.....韓洪學
風行一時的“林訊小說”	.....孔 立	文學翻譯中“刪節原作”和“增補原作”	
林訊小說的地位與影響	.....曾憲輝	現象的文化透視 兼論錢鍾書《林	
林紓的其他翻譯作品	.....張俊才	紓的翻譯》	.....黃漢平
林紓翻譯試論	.....郁奇虹	林紓翻譯研究新探	.....林佩璇
試論林琴南的小說觀	.....姜東賦	從話語的角度重讀魏易與林紓合譯的《黑	
“叫旦之鷄”林紓和他的晚啼	.....馬德明	奴籲天錄》	.....[香港]張佩瑤
結合“林訊小說”談林紓的封建意識	.....李占領	林紓與中國文學現代性的發生	.....楊聯芬
《林紓佚文叢刊》第一卷前言	.....李家驥	被道德僭越的愛情 林訊言情小說《巴	
一個不懂外文的小說翻譯家	.....馬 寿	黎茶花女遺事》和《迦茵小傳》的接	
中國近代翻譯文學的雙子星座 嚴復與		受	.....郝 嵐
林紓翻譯文學比較談	...丘鑄昌、程翔章	“林訊”與《小說月報》	.....謝曉霞
林紓與比較文學	.....林 薇	林紓對哈葛德冒險與神怪小說的解讀	.....郝嵐
可貴的探索 斐然的成績 林紓記述			
《伊索寓言》試評	.....鮑延毅		

中国經驗与西方經驗的機遇	林詒《巴	古法之衛道，抑或新派之革新	論林詒
黎茶花女遺事》研究	.....畢新偉	小説文言運用的必然及潛質	.....王 瑜
從文化學派翻譯觀比較林詒和龐德的詠介		小説創作与理論	.....
活動	.....朱伊革	林詒的小説	.....陳炳堃
林詒和王慶驥 被遺忘的法文合作者及		林琴南的文学評論	..... [ 日本 ] 内田道夫著、夏洪秋詠
其對林詒的意義	.....韓一宇	林詒小説創作簡論	.....張俊才
淺談林詒的翻譯思想	.....王寧、楊永良	試論林詒對小説地位与作用的認識	兼
從解構主義的視角看詠文与原文的關係		談林氏的政治思想傾向	.....曾憲輝
讀《林詒的翻譯》	.....安麗姪	論林詒對中西小説的比較研究及其價值	.....紀德君、楊茜
從林詒的翻譯看翻譯的主体間性	.....曠劍敏	古文家的“新小説”	林詒的長篇小説
對林詒小説風靡一時的再解讀	.....李宗剛	.....夏曉虹	
林詒《迦茵小伝》的文学價值及其影響	.....韓洪學	喜看古樹綻新葩	林詒的小説理論建樹
吸收与反哺 林詒与英国文学之關係	.....黃少華	.....林 薇	
齒牙吐慧艷似雪 文采照人清如秋	淺	林詒自撰的武俠小説 《技擊余聞》最	早版本辯正
論林詒的詠作及其文学史意義	.....吳 欣	《林詒選集·小説卷》前言	.....林 薇
20世紀中国翻譯界的一場論争与轉型		(四川人民出版社とする)	
兼論林詒与新文学家的詠介觀	.....王建開	林詒小説創作与西方文学	.....袁荻湧
林詒与英国文学	.....黃幼嵐	林詒和他的小説理論	.....蔡景康、楊慧玲
是翻譯還是整理 質疑林詒的“翻譯”	.....王秀雲	《畏廬小品》選編後記	.....林 薇
交互主体性：林詒《黑奴籲天録》的整合		林詒与《金陵秋》	.....經盛鴻、鄧若華
邏輯	.....譚曉麗	林詒的小説理論	.....王 萱
“林詒小説”与林詒文学創作的關係	.....林娟	圓融与逸出 林詒与“小説筆法”	.....吳 微
《林詒小説研究》序	.....郭豫適	20世紀初林詒的文言短篇小説	.....康 文
“林詒小説”对中国文学語言演变的貢獻	.....韓洪學	試論林詒的短篇小説	.....王 萱
談《迦茵小伝》詠本的刪節問題	.....沈慶会	論林詒短篇小説的藝術創新及其缺陷	.....韓洪學
林詒与“娛樂化”的莎士比亞	.....郝 嵐	簡論林詒的中長篇小説創作	.....王國偉
“忠實”不是評價詠作價值的唯一尺度		略談林詒現實主義小説理論	.....張愛萍
林詒成功翻譯的啓示	.....陳秋敏	憤世嫉俗 大胆開拓 論林詒傳奇創作	.....韓洪學
從權力話語看林詒翻譯中的改写	.....謝海燕	的思想及藝術創新	.....蔣建梅
翻譯研究中的龐德 / 林詒現象	.....祝朝偉	詩文与画	.....
淺談“林詒”小説的時代文化特色	.....楊紅軍	《畏廬文集》序	.....張 信
“林詒小説”与意識形態、出版機構的		《鉄笛亭瑣記》序	.....臧蔭松
關係	.....郝 嵐	林詒的古文	.....錢基博
化境的缺席与在場	.....朱鴻亮	《春覺齋論画》後記	.....顧廷龍
林詒詠文不忠的因由探究及啓示	.....張永中	書《閩中新樂府》後	.....高夢旦
《撒克遜劫後英雄略》的文学價值及		林詒	..... [ 台湾 ] 陳敬之
其影響	.....韓洪學	關於林詒作《諷諭新樂府》	.....張俊才
愛情与契約：重讀林詒的詠作《吟邊燕語》	.....鄭 鈺	詩論林詒的詩論和詩作	.....曾憲輝
通過權力話語理論看林詒翻譯策略的選取	.....朱曉玲	林詒古文理論述評	.....張俊才
從林詒的歸化式翻譯策略看多系統理論	.....楊曉紅	林詒文論淺說	.....曾憲輝
林詒言情小説中的女性觀	.....梁桂平	林詒論文旨趣辨略	.....陳 龍
		林琴南古文的陰柔美	.....張俊才

勇於創新的“叫旦之鷄”	學習林紓訊	.....王琦珍
序写作理論札記	.....肖木	簡論保守与激進
《林紓詩文選》前言	.....李家驥	.....宋志明
《林紓選集·文詩詞卷》前言	.....林薇	在“新”“旧”对峙的背後
林紓論文的“取法乎上”	畏廬文論	從林紓看
議	.....曾憲輝	“五四人”与“晚清人”的代際文化
“文生於情 情生於文”	林紓《蒼霞	心態差異
精舍後軒記》的文本特色	.....林薇	林紓“落伍”問題研究
論《閩中新樂府》	兼談其梓行及其它	.....胡煥龍
.....曾憲輝		林琴南的遺老情結
論林紓的修辭觀	.....宗廷虎、李金苓	古文万無滅亡之理
嚴復、林紓与桐城派	.....田望生	重評林紓与新文学
林紓与嚴復散文、記述之比較	.....謝飄雲	倡導者的論戰
簡論林紓的詩歌創作	.....鄭新勝	.....畢耕
林紓其人其文苑記其詩其画	.....包立民	“悠悠百年，自有能辨之者”
林紓与書評	.....伍傑	重評林
“新”“旧”之争	.....	紓及“五四”新旧思潮之争
復王敬軒書	.....劉半農	.....張俊才
答林君琴南函	.....蔡元培	林琴南：旧文化的終結者...蘇效明、陳金山
再說林琴南	.....開明	一場“唐吉訶德”式的思想論戰
写在半農給啓明的信底後面	.....錢玄同	林紓
嚴幾道与林琴南	.....咨實	与五四新文化陣營思想衝突過程再回
白話与文言之争	.....[台湾]尹雪曼	顧
对以林紓為代表的封建復古派的鬭爭	.....	.....胡煥龍
...中南七院校《中国現代文学》編写組		“白話文学正宗”論檢討
与封建復古主義者的鬭爭	.....劉綬松	兼評林紓
林紓对“五四”新文学的貢獻	.....張俊才	“古文之不宜廢”論
林紓与新文化運動	.....李景光	.....歐陽健
“桐城謬種”問題之回顧	.....舒蕪	一場没有思想對話的思想論戰
論林紓的中西文化觀	.....李占領	林紓与
林紓、王国維比較論	.....李彬	五四新文化陣營論戰焦點的再分析
瓦屋隨筆：林琴南	.....吳方	.....胡煥龍
林紓晚年評價的兩個問題	.....洪峻峰	《大公報》中林紓集外文三篇
徐樹錚与新文化運動	讀書札記二則	.....江中柱
.....陳思和		悲劇結局
林紓的認同危機与民初的新旧之争	.....羅志田	.....張俊才
晚年林紓与新文学運動	.....劉克敵	林紓現象与“文化保守主義”
林紓与桐城派、改良派及新文学的關係	.....蔣英豪	.....王富仁
.....蔣英豪		林紓哭陵辯
林紓散論	.....吳俊	.....胡煥龍
“学衡”的准星	漫談“学衡”派的	福州近代文化巨人林紓在晚清
文化觀	.....劉克敵	.....歐陽健
“五四”前後的林紓	.....王楓	為古老民族的文化守護神林紓一辯...蘇建新
“五四”文学革命的另一面	以林紓為	為林琴南一辯
中心	.....洪越	“方姚卒不之賂”析
林紓的矛盾	兼談他与“五四”文学先	.....程巍
驅者文学觀念的異同	.....馬兵	附錄
文学轉型期的矛盾与惶惑	林紓試論	關於《林紓翻譯作品全目》
		.....馬泰來
		林紓生平正誤
		.....張俊才
		評《林紓研究資料》兼論林紓对世界文学
		的貢獻
		.....鄭朝宗
		林紓逸史
		.....林薇
		林紓先生家藏旧稿問世
		.....文林
		林琴南辦白話報
		.....無聞
		“福州市紀念林紓誕辰150周年”專家學者
		座談会發言摘要
		.....(著者名不記)
		林琴南究竟翻譯了多少小説
		.....鄒振環
		林紓与台湾
		.....江中柱
		後人心目中的林紓
		.....林大文
		林琴南軼事
		.....胡孟璽
		貞文先生学行記(卷一)
		.....朱羲青
		冷紅生伝
		.....林紓
		(『林紓研究資料選編』)後記
		.....陳錦谷

【清末小説研究会の本】

樽本照雄著

# 林紓冤罪事件簿

A5判 上製 箱入り 418頁 限定150部 定価：8,400円

林紓（りんじょ）は、清朝末期から中華民国初期において外国文学翻訳家として有名です。翻訳作品数は200点をうわまわり、「林訳小説」とよばれて当時の読者から大歓迎されました。しかし、彼は、外国語ができなかった。「外国語を理解しない翻訳者」といわれることにもなったのです。

林訳小説の欠陥のひとつは、シェイクスピア、イブセンの戯曲を小説化して翻訳したことだ、と嘲笑され批判されて現在に至っています。そればかりか、文学革命が唱えられていた五四事件の直前に、林紓は武力による北京大学抑圧をたくらんでいた、と非難されてもいるのです。

ところが、批判の根拠である戯曲の小説化という事実は、ありませんでした。しかも、武力を背景にして文学革命派を攻撃する旧派の代表者林紓はどこにも存在していないのです。ゆえにこれを総称して林紓冤罪事件といいます。

## 【内容目次】

### 林紓を罵る快樂

1 林紓の翻訳 / 2 『青年雑誌』から『新青年』へ / 3 林紓が奇妙な登場のしかたをする / 4 林紓批判のはじまり / 5 林紓評価をめぐる新しい展開 / 6 林蔡問題 / 7 陳独秀問題 / 8 林紓書簡 / 9 北京大学をめぐる風説風聞 / 10 林紓が書いた短編小説 / 11 張厚載の退学処分 / 12 結論

### 林訳シェイクスピア冤罪事件

1 林訳小説の欠陥 / 2 定説がくり返

される / 3 林訳シェイクスピア歴史

劇の底本 / 4 結論

林訳イブセン冤罪事件

林訳スペンサー冤罪事件

林訳セルバンテス冤罪事件

林訳小説冤罪事件の原点 鄭振鐸「林琴南先生」について

魯迅による林紓冤罪事件 「引車売漿者流」をめぐる

魯迅「出乎意表之外」の意表外

林訳小説評価の最近

清末小説研究会

<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>